

平成21年10月9日

山形県議会議長 殿

山形県議会議員 笹山 一夫



発言通告書

今回の県議会において次のとおり発言したいので通告します。

発言の種別	質疑 一般質問	討論 (賛成・反対)	一身上の弁明
発言の趣旨	答 弁 者		
発議第12号	地域の安全・安心の確保に必要なダム建設事業の推進を求める意見書		
発議第13号	経済対策の継続的な実施等を求める意見書		
(趣 旨)			
発議第12号	県の最上小国川治水計画はダムありきですすすめられてきたことから、流域		
の環境問題や景観などは全く考慮されずにきた。			
日本共産党山形県議団は、国土問題研究会及び山形大学教授に調査を依頼し、「山形県			
最上小国川治水計画の問題と適正な治水対策案」を2008年3月に公表した。			
現地の最上町及び舟形町でダムによらない治水対策案の説明会を開催してきた。			
その治水対策案とは			
1) 県の治水計画において、計画規模を1/50、基本高水流量を毎秒350立法メートルとしている。			
最上小国川流域の特徴を考慮し「国土交通省河川砂防技術基準」に基づくと、計画規模は1/30で十分といえる。それにより基本高水流量は毎秒200～250立方メートルを採用しても十分な安全確保ができる。			
2) 県はダムに代わる治水対策案の比較検討で「河道改修案」では山付き部で護岸工事の費用を計上したり、川沿いの低地部にある農地を守るために築堤する工事の費用の試算を行うなど現実性のない「治水対策」案とダム案との機械的数字の比較がなされている。			
ダム以外の「治水対策」案をまじめに検討する姿勢がみられず、ダム案が有利であるという結論を引き出す検討になっている。			
3) 最上小国川ダムは、最上小国川の最上流部に計画されおり、ダムの集水面積が小さいため最上小国川ダムのすぐ下流の一部の区域でしか洪水調節効果が期待できない。			
4) 赤倉温泉地区の虹の橋下流に温泉水の湧出のための堰があり、堰よりも上流約200メートルの区間の河道の流下能力が毎秒130～200立法メートルと小さくなっている。			
5) 堰を可動堰に変え、堰より上流の河床の体積土砂礫を除去することにより、堰より上流の河床の流下能力を毎秒80～100立方メートル程度増加させることが可能だ。			
6) 関係者の合意を得た上で、湯の原橋上流右岸側の農地を遊水池として活用する。			
7) 湯の原橋下流右岸地区の内水対策を実施する。河床の切り下げは内水の浸水対策とし			

ても効果が大きい。

- 8) 赤倉温泉の温泉湧出のメカニズムを検証した結果、地表付近の浸透層中の地下水位が低下しないようなメカニズムを構築すれば、堰を撤去して堰より上流の堆積土砂礫を排除するような河道改修を実施しても従来通りに温泉を湯船に直接湧出させることが可能である。等々である。

よって、最上小国川の治水対策は、ダムによらない治水対策でおこなうべきだ。

発議第13号 「これまで行われてきた経済対策の継続性に十分配慮し」とあるが、国の補正予算には大企業の資金繰りを支援するために事業費20兆円を超える枠組みになっている。

「非正規切り」を続け、ため込んだ莫大な内部留保には手をつけない大企業に国民の税金をつぎ込むことは許されない。

研究開発減税は、大企業が最も恩恵を受ける減税策だ。

貧困と格差を拡大させてきた構造改革路線を根本的に転換することなく、国民生活への支援策は一時的、限定的になっている。

雇用保険を受給していない人への職業訓練期間中の生活保障は3年の措置でなく恒久的な制度にする必要がある。